

薬物の血液粘度に及ぼす影響 (IV)

—ツムラ「当帰四逆加呉茱萸生姜湯」による末梢循環改善効果—

千葉大学医学部附属病院 薬剤部

川崎製鉄健康保険組合千葉病院 整形外科

小林 悟
金久保 好男

黒田 重史
東京大学医学部附属病院分院 薬剤部

岩崎 由雄

第4表 医師の判定

全般改善度				
著明改善	改善	やや改善	不変	増悪
5 (16.7%)	9 (30.0%)	3 (10.0%)	12 (40.0%)	1 (3.3%)
(56.7%)				
有効度				
極めて有用	有用	やや有用	どちらともいえない	有用性なし
5 (16.7%)	9 (30.0%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)	12 (40.0%)
(53.4%)				

第6表 体格別有効度

体 型	極めて有用	有用	やや有用	どちらともいえない	有用性なし	
						肥満型
肥満型	水ぶとり	1 (2)	4 (6)	0 (1)	0 (0)	5 (5)
	堅ぶとり	1	2	1	0	0
中肉型	筋肉質	2 (2)	1 (2)	0 (1)	1 (1)	3 (3)
	普通	0	1	1	0	0
やせ型	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	

$\chi^2_0 = 4.961$ N. S.

第7表 ツムラ-No. 38投与による血液粘性の変動

No.	症 例	性	年齢	体 格	投与期間	改善度	有用度	$\eta'a$ (cp)		T · I	Casson 降伏値	Ht (%)
								前後	($\dot{\gamma} = 376 \text{sec}^{-1}$)			
1	K.K.	♀	71	肥満型 水ぶとり	6週	不変	なし	3.65 4.07	1.23 1.50	0.0231 0.1179	41.1 40.3	
2	Y.K.	♀	22	"	4	"	"	4.19 3.59	1.42 1.35	0.0866 0.0442	42.8 40.3	
3	S.N.	♀	40	"	3	著明	極めて有用	3.34 3.11	1.46 1.41	0.0579 0.0411	37.6 33.9	

VI 結 語

ツムラ-No. 38を「証」を考慮しないで、末梢循環障害と思われる患者30例に投与すると、

① 全般改善率は57%、副作用はみられず、有効率は53%であった。

② 効果出現までの平均期間は、手足のしびれで2.5週、手足の冷えて1.5週であり、男女間及び体格別では有効性の差は認められなかった。

③ 血液に対しては3例とも Ht 値の低下傾向が見られ、2例は $\eta'a$, T · I, Casson 降伏値とも低下傾向を示し、末梢での血流改善が示唆された。

当帰四逆加呉茱萸生姜湯が奏功した脱毛症の一例

今田屋 章 (千葉県・今田屋内科)

(緒言) 脱毛症は老人性のもの以外は柴胡加竜骨牡蠣湯、桂枝加竜骨牡蠣湯、柴胡桂枝乾姜湯などが多用され、当帰四逆加呉茱萸生姜湯の応用例は非常に少ない。今回、本方が著効を奏した若年性の脱毛症の一例を報告する。

(症例) <患者> K.S.: 女 21才 <主訴> 脱毛 <現病歴> 大学入学後下宿生活を始めたが、不規則な生活、不摂生な食事などが続いた。徐々に頭髪が抜けはじめ、約6カ月で頭部はほぼ全脱毛状態となった。S医大皮膚科受診し、アトピー性脱毛症と診断された。軟膏類を塗布すると毛が生えてくるが放置するとまた脱毛状態となった。ついで、Yクリニック受診し、2年間ダニ減感作療法を受けたが無効。平成6年9月6日当院受診。

<現症> 身長156cm 体重45kg、心、肺異常無し。鬢を脱ぐと頭髪は一部残るものの全域にわたって脱毛著しい。正常の髪の状態を100%と想定すると現在5%位である。<漢方医学的所見> 自覚症状: 疲れ易い、寒がり、足が冷えしもやげができる。二便、月経正常。他覚症状: 顔が青白い。四肢厥冷著明。脈: 沈弱。腹証: 腹力弱、胸脇苦満軽度、鼠径部圧痛有り。<証> 自他覚症状より、当帰四逆加呉茱萸生姜湯(当四呉生湯)を強く示唆する。<経過> 当四呉生湯加薏苡仁3.0、熟地黄3.0の煎剤を投与した。本方服用し2週間もしない中にみるみるうちに髪が伸びてきたという。平成6年12月、まだ薄いが髪は50%程度までに改善した。平成7年1月、頭髪著しく増えた。しばらく薬のみ取りにきていたが、6月3日受診。頭髪ふさふさとなり正常となった。以後順調。

(考察と総括) 2年以上にわたって現代医学的治療を施行したにもかかわらず本症例の脱毛には効果がなかった。随証治療により、当四呉生湯を投与したところ著明な効果を認めた。本例は四肢が著しく冷えていた。当四呉生湯が全身の末梢循環を改善し結果的に脱毛にも効果があったものと考えられる。

報告

当帰四逆加呉茱萸生姜湯の冷え症 に対する効果について

岡 進¹⁾ 中嶋 義三²⁾

要旨 冷え症24人に対して当帰四逆加呉茱萸生姜湯を投与しその効果を検討した。本剤は苦みが強く7日目までに3人が服用中止したので、21人で効果判定を行った。著効は手と足の両者とも冷感が消失したもので5例、23.8%。有効は手か足の一方の冷感が消失したもので13例、61.9%。著効、有効を合わせた有効率は85.7%であった。効果発現時期は平均36日目で最短7日目、最長105日目であった。投与期間は著効例で7.8カ月、有効例で5.8カ月であった。無効例は3例、14.3%であった。効果判定は平均19日目で無効の判定を下し、投与期間は3.6カ月であった。

本剤投与著効例では、まず手の冷感が改善し、ついで足の冷感が改善した。それにともない四肢末端の色調の改善、爪変形の改善がみられた。本剤は「苦み」があり服用しにくいことを訴えるが、効果があれば長期服用もいとわぬ漢方薬であり、冷え症に対して有用である。

臨床経験

腰部脊椎管狭窄症に対する当帰 四逆加呉茱萸生姜湯の効果

山上 裕章 住田 剛
橋爪 圭司 奥田 孝雄

要旨 神経ブロック治療ではその改善がプラトーとなった腰部脊椎管狭窄症(complete type) 7例に対し、当帰四逆加呉茱萸生姜湯を投与した。対象は男性3例、女性4例; 平均年齢は62.9±9.96歳で、全例とも膀胱直腸障害などは認められず、主訴は下肢のしびれ・冷感・腰下肢痛だった。

投与開始1カ月後に効果を判定したが、著効1例、有効2例、やや有効4例で、無効・悪化例はなかった。日整会腰痛治療成績判定基準では12.3±3.45から18.3±3.04と有意の改善を認めた(P<0.01)。種々の治療を経てきた症例が対象のため著効は1例にすぎなかったが、当帰四逆加呉茱萸生姜湯の末梢循環改善作用が奏効したと考えられる。

臨床報告

頸椎症性神経根症に対する当帰 四逆加呉茱萸生姜湯の効果

山上 裕章 橋爪 圭司
下川 充 古家 仁

要旨 神経ブロック療法で改善がプラトーに達した寒症証例8例にツムラ当帰四逆加呉茱萸生姜湯エキス顆粒を投与しその効果について検討を行った。投与3週間後には愁訴は有意に改善し、Visual analogue scale は5.6から3となり、3カ月後では2例の症状が消失した。副作用は特に認められなかった。当帰四逆加呉茱萸生姜湯投与による持続的な末梢循環改善作用が効を奏したと考えられる。

疝気症候群A型と膀胱結石の合併例

中村謙介

当帰四逆加呉茱萸生姜湯は冷えを主目標として用いるが、全身の新陳代謝の低下による少陰病の冷えと異なり、血管運動神経失調によると考えられる。本方証を構成する症状を病態分類すると、以下のようになる。

まず寒候に属する主証として、悪寒、腹部冷、手足厥寒、客証としてチアノーゼ、レーノー、尿自利。

二番目に寒による疼痛をあげられる。疼痛そのものは症状であり、種々の病態から派生するが、疼痛自体からはその病態を特定できず、しかも最も宿主を苦しめる症状、つまり主訴となることの多いものであるために、ここに一項を設けた。疼痛の主証は、疝気腹、腰脚掣急、頭痛、身体痛、四肢痛があり、客証として麻痺感や知覚異常を近似な症状のため、ここに並べることができる。

本方の三番目の構成病態として、脾胃の虚がある。この主証として腹満がある。これは気の異常も関係する。客証には嘔吐、下痢、腹鳴がある。

四番目の構成病態として虚証があり、この主証に該当する症状がかなり強い疲労感である。

五番目に水毒があり、これは客証であつて微腫、尿不利、胃内停水、頭重、咳痰。

六番目に気の異常がある。これも客証であつて胸満、胸痛、喘息、精神症状、感情不安定、不眠、憂鬱等をかぞえることができる。

当帰四逆加呉茱萸生姜湯証は以上六つの構成病態から成つており、そのすべてを備えている場合は典型的な本方証である。しかし実際の臨床ではそのいくつかの病態を欠いた、非典型的な証でもつて患者は来院することが多い。構成病態を欠損するほど本方証であると診断するのがむずかしくなる。又、同じく当帰四逆加呉茱萸生姜湯証であつても、患者によつて、或いは疾患によつて主訴となる。つまり最も目立つ病態は、六つの構成病態の中で異つてくる。

●第二回漢方湯液治療研究会講演原稿

当帰四逆加呉茱萸生姜湯証とその鑑別について

仲原靖夫

実際の臨床例では特に腹を冷やすことの害を知らないまま冷たい物を多食、多飲することに起因することが多いという印象を受ける。特に暑い沖繩の場合、クーラーを強く効かせ、冷たいものを多食多飲するという食習慣が確立された観すらある。そして、頑丈な人程その影響を強く受けるのである。このことから、本証を現代の文明病として位置づけてもよいのではないかと考える次第である。

そこで本証の発証機序を次のように整理した(図11)。冷飲食により胃腸を冷やすと上部消化管に血流が偏在する。同時に末梢血管が収縮するので、四肢、腹部臓器、筋肉、脳への血流が低下し、本証の多彩な臨床症状が出現する。その多彩な症状を「手足厥寒、脈沈細欲絶」という点に代表させた点に「傷寒論」の叢智を見る。それに当帰四逆湯証のすべてが要約されているのである。

また冷やされた生体は自ら体温を維持するため、大量の熱を発生するから更に冷たいものを要求するという悪循環を形成するところに本証の悲劇がある。

図 11. 当帰四逆加呉茱萸生姜湯証の病因及び病態

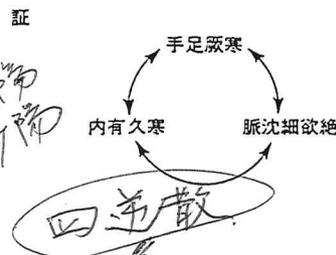
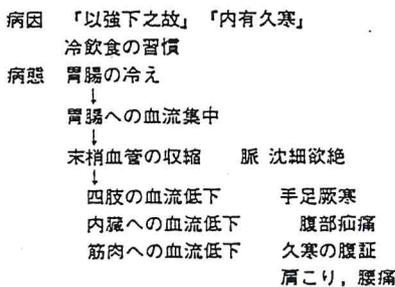


表3 当帰四逆加呉茱萸生姜湯の使用基準(案)

- Major sign: 1. 外界の温度変化に敏感で、ことに四肢末梢部が温まりやすく、冷え易い。 2. Raynaud現象 3. 凍刺罹患傾向 4. 手掌、足趾の発汗傾向 5. 橈骨動脈が細く緊張
- Minor sign: 1. 頭痛 2. 腹痛 3. 短時間移動性関節痛 4. 易疲労 5. 精神不安 6. 憂うつ 7. 悪心、嘔吐 8. 腰痛 9. 両側腓直筋の軽度萎縮
- Negative sign: 1. 低体温傾向 2. 水瀝性下痢 3. 明らかな瘀血症状 (口唇、舌の暗赤化、脛旁圧痛、月経異常) 4. 明らかな胸脇苦満(季肋部の抵抗、圧痛、不快感)

(判定) Major signが3つ以上そろるか、Major sign2つにMinor signが2つ以上認められれば本方を用いる。ただしNegative signが1つでもあつてはならない。

(寺沢捷年氏ら)

寺沢捷年氏¹⁶⁾らは、四肢寒冷症候を示すものを四型に分類している。A型。四肢末梢に最も著しく、あわせて全身の低体温化を示すもので、陰・虚証に分け、附子を主剤とする方剤の適応になる。B型。四肢末梢部を主に寒冷症候を示すもので、軀幹部体温に異常を占めさない者、当帰四逆加呉茱萸生姜湯は、代表的方剤である。C型。純粹のC型とB型の亜型が含まれる。下半身型で、八味丸、苓姜朮甘湯、五積散が適応。B型亜型は、上半身の熱感を伴う下半身の冷えである。D型。身体半側の自覚的冷えて、中枢神経疾患による者が多い。自験例では、やはり、B型に相当する者が殆どであった。

また同氏らは、本方の使用基準をあげている(表3)。それによると、本方の適応となる病態は、気の異常を主体とし、血水の異常を伴ったもので、現代医学的には、血管運動神経失調を基盤にしたものと解釈できるといっている。

當歸四逆加吳茱萸生薑湯。

卷六

十八

傷寒脈促。手足厥逆。可灸之。促一作促。

傷寒脈滑而厥者。裏有熱。白虎湯主之。方二。

知母 六兩

粳米 六合

石膏 一斤 碎
甘草 二兩 炙

右四味。以水一斗。煮米熟。湯成去滓。溫服一升。

日三服。

手足厥寒。脈細欲絕者。當歸四逆湯主之。方三。

當歸 三兩

細辛 三兩

大棗 二十五枚 擘

桂枝 三兩 去皮

甘草 二兩 炙

芍藥 三兩

通草 二兩

右七味。以水八升。煮取三升。去滓。溫服一升。日三服。

三服。

若其人內有久寒者。宜當歸四逆加吳茱萸生薑湯。方四。

湯。方四。

當歸 三兩

通草 二兩

生薑 半斤 切

右九味。以水六升。清酒六升。和煮取五升。去滓。

溫分五服。各一方。水酒。

大汗出。熱不去。內拘急。四肢疼。又下利。厥逆而惡。

卷六

十九

當歸四逆湯と當歸四逆加吳茱萸生薑湯の臨床經驗

東京大塚敬節

結語

疝とよばれた病氣

東洋医学には“疝”とよばれる病氣があり、素問以降、多くの典籍に、その原因、症候、治療が論ぜられている。この疝は、“疝氣症候群”とも呼ぶべきもので、あとでのべるような種々の症候がみられ、近代医学の治療では満足すべき効果が得られないのを特徴とする。

疝については、素問の長刺節論に、“病、少腹に在って腹痛し、大小便を得ず、病名けて疝と曰ふ、”とあり、金匱要略では、手足が厥冷して、腹痛を訴える病氣を寒疝とよんでいる。

元来、疝は腹痛を主訴とした病氣である。説文には、“疝は腹痛なり”といい、釈名には、“心痛を疝と曰ふ、疝は読なり、氣読々然として上って痛むなり、”とあり、また“読々として小腹に引きて急痛するなり、”とも云っている。少腹とよび、小腹ともいうが、ともに、下腹のことであるから、疝は腹痛を主訴とするもので、その腹痛は下腹に起って上にのぼる傾向があり、またその腹痛が上から下に波及し、更に陰部に、ひきつれる傾向もある。

疝の原因について、諸病源候論では、陰氣が腹内に積み重なったところえ、外から寒氣をうけて起るといい、柴衝が不調で、血氣が虚弱になっているから、風冷が腹に入ると疝になるとのべている。

更に鑑門事親では、疝はすべて肝經の変であるとして、その症候として、生殖器、泌尿器の方面からくる徴候を、次のようにのべている。

すなわち、遺尿、尿閉、陰萎、尿の失禁、遺精、月経不順、月経閉止、痿躄、咽乾、下腹の塊、子宮脱、痔核などをあげて、疝の症状としている。けれども、これらの症状は、疝の徴候の一部であって、疝は本来、腹痛を主訴とするものである。そこで、諸病源候論にあげた七疝も皆、腹痛を主訴としているのである。

けれども、本間壽軒が、その著内科秘録の中で、疝を腸と腸間膜の病氣と単純にきめてつけている点には、賛同できない。

疝については、わが国でも、多くの諸家によって立論せられ、津田玄仙は、療治茶談の中で、疝の原因、症状、治方、類似症との鑑別などについて、詳しく論じている。また和田東郭、有持桂里等の説にも傾向すべき説があるが、ここでは割愛する。

疝だけを専門に論じたものに、大橋尚因の疝徴積聚編がある。尚因は、疝の重要性について論じ、この病氣が“肝”に関係している点をあげ、面白いたとえばなしをしている。

肝は、人間の世界で云えば、俠客のようなもので、他人の喧嘩をかって出て、自分の敵でないものまでも、自分の敵とする。だから他の臓器の病氣までも、みんな肝が引きうけて、これを相手とする。

そんなわけであるから、疝という病氣は、非常に多く、肝それ自身の病氣ではない、他の臓器の病氣までも、肝がひきうけて、疝の徴候を現わすのであると。

まことに切適な比喩である。

なほ香川修徳は、一本堂行餘医言、卷三に、疝について、次のようにまとめている。“疝は氣が鬱滞して痛をなすもので、多くは下腹にあり、時には上逆して急痛し、またあちこちに疼痛が走り、また臍下から上って胸を衝き、また下って、陰囊にひき、また背や脇肋にひきつれ、小便が近くなったり、便秘したり、下痢したりする云々、”

以上によって、古人が疝とよんだ病氣が、どんな病状のものであるか、およその見当がついたものと思ふ。

以上の経験から、當歸四逆湯と當歸四逆加吳茱萸生薑湯は、古人が疝とよんだ病氣の中で、次に掲げられるような症候のものに用いられる。その効力の発現は、発病後、日の浅いものには、速効があり、数年を経たものは、全治までに数ヵ月から、2、3年を必要とする。

- 1) 慢性に経過する疼痛を主訴とし、寒冷によって、その症状が増悪する。
- 2) 疼痛は腹痛を主とし殊に下腹部にみられることが多く、腰痛、背痛、頭痛、四肢痛を伴うものがある。
- 3) 疼痛の本態を近代医学的の検索によって明確にしたいことが多く、神経性のものと診断せられる傾向がある。
- 4) 腹診上では、下腹部で、左右または右或は左のいずれかの部位に、圧痛を訴えるものが多かった。しかしこの部に強い抵抗をふれることはなかった。また腹部軟弱なものと腹直筋の拘急しているものとあって、その腹状は一定していないが、虚証であって、寒性であることはすべての症例に共通である。
- 5) 疼痛は、つれる、つっぱるという状態のものが多く、痛む箇所が1箇所であることは珍らしく、多くはあちこちで痛む傾向がある。
- 6) 肝經の変動によって起ると考えられる症状が多く、殊に生殖器、泌尿器方面の障害を訴えるものが多かった。

前経部の圧痛

当帰四逆加呉茱萸生薑湯の著効例
-升水 達郎-

生薬：
成分：
処方：当帰四逆加呉茱萸生薑湯

雑誌名：漢方診療 7巻 1989年 1号 56頁 通算 頁

報告：治験例 標的器官：臨床一般
剤形：エキス剤 投与経路：ヒト経口 投与量：
併用薬：

内容：症例報告：臨床において当帰四逆加生薑湯が著効を示した5症例
①掻痒感[78歳、男]②右半身知覚障害、歩行障害[63歳、女]③RA[46歳、女]④肩こり、冷え症[38歳、女]⑤月経痛[22歳、女]

「返品」：副作用情報134

生薬：
成分：
処方：当帰四逆加呉茱萸生薑湯

雑誌名：東医研データ 巻 1991年 号 頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：脳・神経系
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：
併用薬：

内容：不眠、神経症[s27.1.29、女]：上記処方後、胃痛、嘔吐発現。その後、柴胡加竜骨牡蛎湯に変更となった。

老人皮膚科領域における漢方治療 当帰四逆加呉茱萸生薑湯

生薬：
成分：
処方：当帰四逆加呉茱萸生薑湯

雑誌名：現代東洋医学 12巻 1991年 2号 32頁 通算 頁

報告：治験例 標的器官：筋・感覚器系
剤形：エキス剤 投与経路：ヒト経口 投与量：
併用薬：

内容：当帰四逆加呉茱萸生薑湯が、疱疹後の神経痛への適応に対し有効であると報告された。

「返品」：副作用情報167

生薬：
成分：
処方：当帰四逆加呉茱萸生薑湯

雑誌名：東医研データ 巻 1992年 号 頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：脳・神経系
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：
併用薬：

内容：頭痛、生理痛[s20.8.10、女]：上記処方後、胃痛発現。その後、黄耆建中湯加附子1に変更となった。

Barre-Lieou症候群に対する漢方製剤の有用性
-大竹 哲也-

生薬：
成分：
処方：葛根湯、当帰芍薬散、半夏白朮天麻湯、当帰四逆加呉茱萸生薑湯、他

雑誌名：現代東洋医学 13巻 1992年 ***号 258頁 通算 頁

報告：治験例 標的器官：脳・神経系
剤形：エキス剤 投与経路：ヒト経口 投与量：
併用薬：S.G.B, PG-E1

内容：①対象：Barre-Lieou 4例 期間：2ヶ月②結果：1)S.G.BとPG-E1併用療法だけで治癒しなかった諸症状に対して、有用な結果を得た2)当帰四逆加呉茱萸生薑湯を内服させると、その30分後に皮膚温は上昇し左右度は改善された 参照：難病、難症の漢方治療第5集（臨時増刊号）

腹部術後疼痛に当帰四逆加呉茱萸生薑湯-placeboとのopentrial
-西沢 芳雄-

生薬：
成分：
処方：当帰四逆加呉茱萸生薑湯

雑誌名：漢方研究 巻 1988年 202号 35頁 通算 355頁

報告：治験例 標的器官：脳・神経系
剤形：エキス剤 投与経路：ヒト経口 投与量：
併用薬：

内容：症例報告：①下腹部術後疼痛に当帰四逆加呉茱萸生薑湯が女性が男性より有効と認められた 参照：「診療と新薬」20；2271-2282②四肢冷感を伴う女性下腹部術後腹痛を伴う患者に対し効果placeboに比し有効であった 参照：「東洋医学とペインクリニック」1988,18 (3)；102-108

帯状疱疹に対する漢方治療の臨床効果-疼痛に対する評価-
-関口 直男-

生薬：
成分：
処方：芍薬甘草湯、当帰四逆加呉茱萸生薑湯、他全9方剤

雑誌名：現代東洋医学 13巻 1992年 4号 31頁 通算 頁

報告：治験例 標的器官：感染・免疫系
剤形：エキス剤 投与経路：ヒト経口 投与量：7.50g/day
併用薬：非ステロイド抗炎症剤、抗生物質含有軟膏、抗ウイルス剤

内容：①対象：HZ 74例 PHN 4例、計81症例 期間：30日②結果：1)有効以上の疼痛改善度は78%であった 2)サモグラフィでは、HZ急性期で高温像を示し、回復期で等温像を示した 3)難治遷延性では高温像が持続した 4)PHNでは一般的に低温像を示した ③副作用：認められなかった

当帰四逆加呉茱萸生薑湯が奏効した慢性関節リウマチの一例
-鎌野 敏彦-

生薬：
成分：
処方：当帰四逆加呉茱萸生薑湯

雑誌名：現代東洋医学 12巻 1991年 1号 221頁 通算 頁

報告：治験例 標的器官：感染・免疫系
剤形：エキス剤 投与経路：ヒト経口 投与量：7.50g/day
併用薬：アコニサン、ボルタレン

内容：症例報告：RA (61歳、男) 当帰四逆加呉茱萸生薑湯を投与した結果、3ヶ月目より疼痛、熱感、腫脹の軽減が得られ、その後良好な経過をたどった。
参照：難病、難症の漢方治療第4集（臨時増刊号）